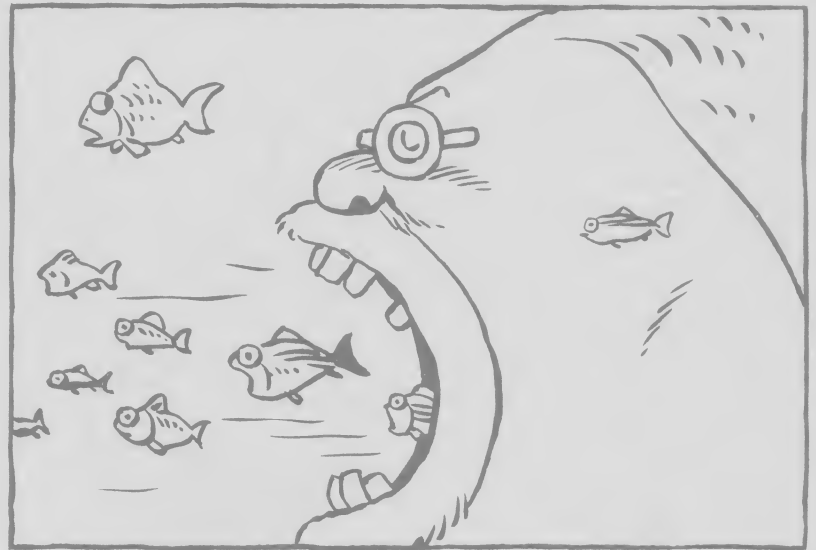
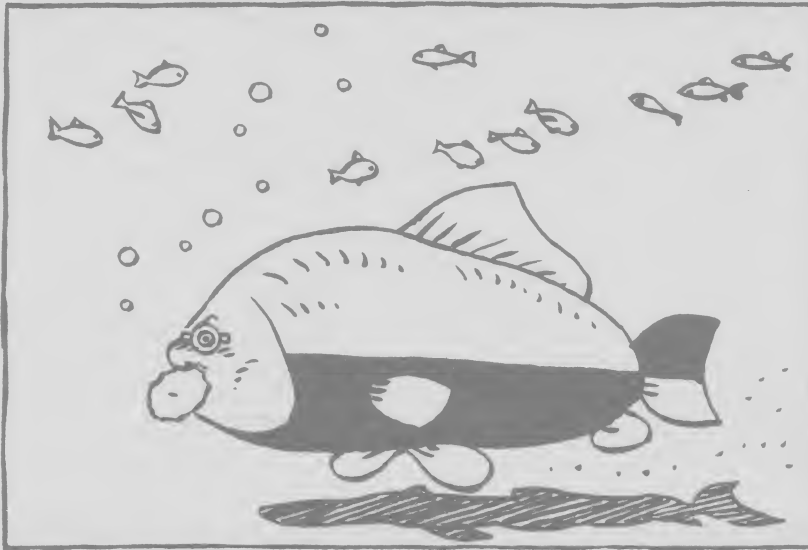
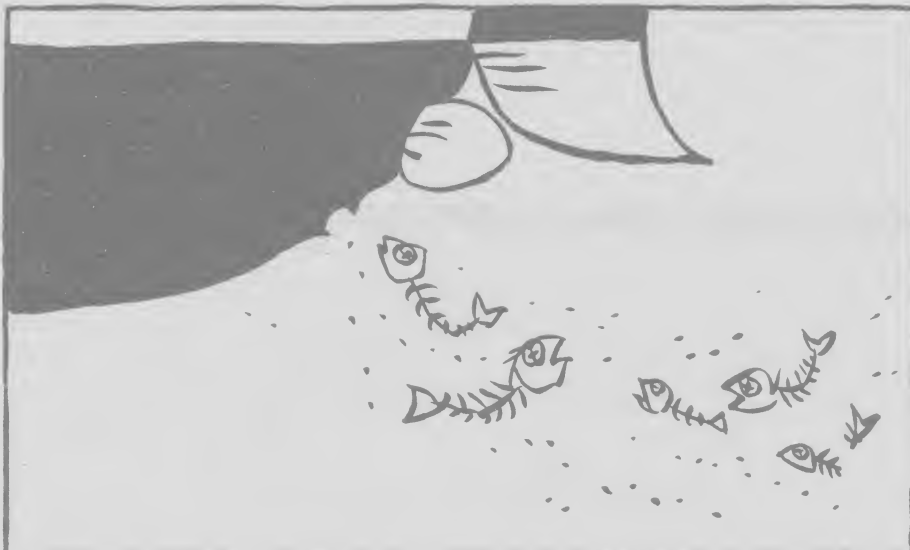
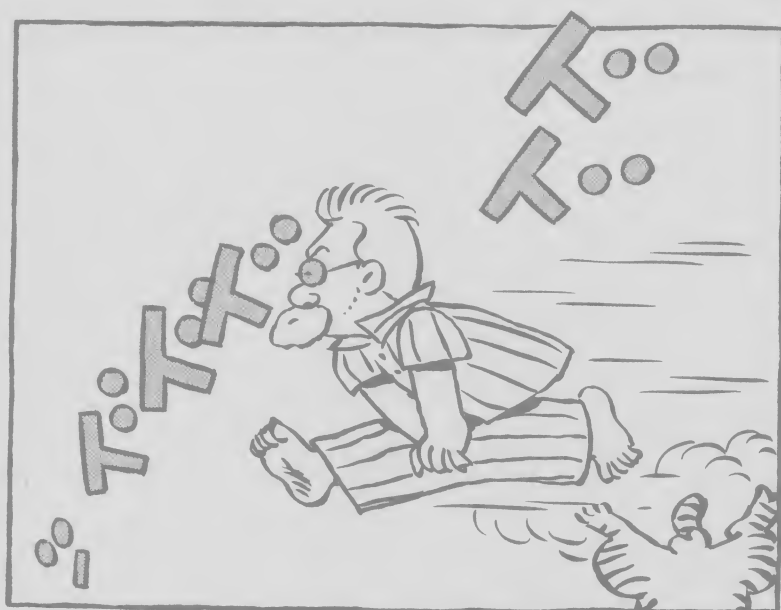
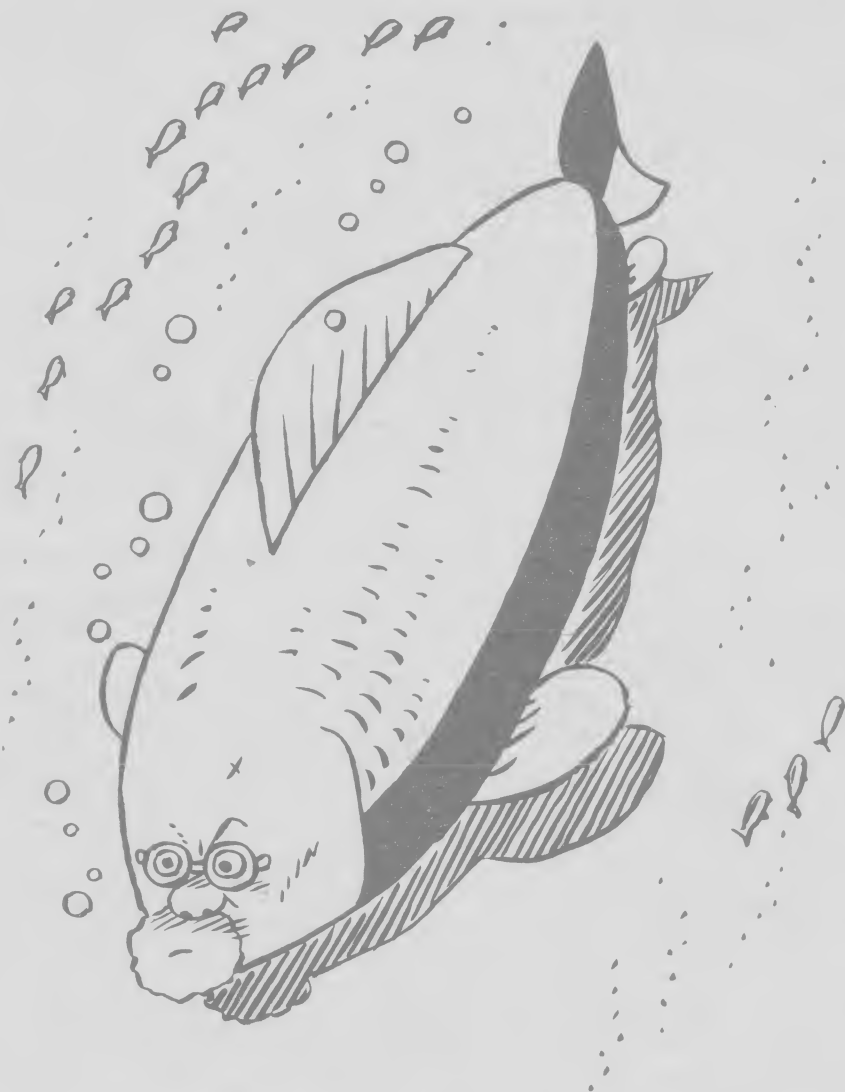
永島慎二

一九九二年　九月〇日

なんだか良くわからないのだが、わたしに良く似た巨大な魚がキラキラ光る水の中を泳いでいるのだった。

そうして、そこいらで楽しそうに遊んでいる小魚を片っ端から喰ってしまうのだ。
水は特別辛い感じもしないようだから、そこは海の中ではなく、河の中であろうと思われた。

食べるとすぐにおしりから、うんこのように小魚の頭とホネを吐き出し吐き出しユックリと泳いで行くのである。

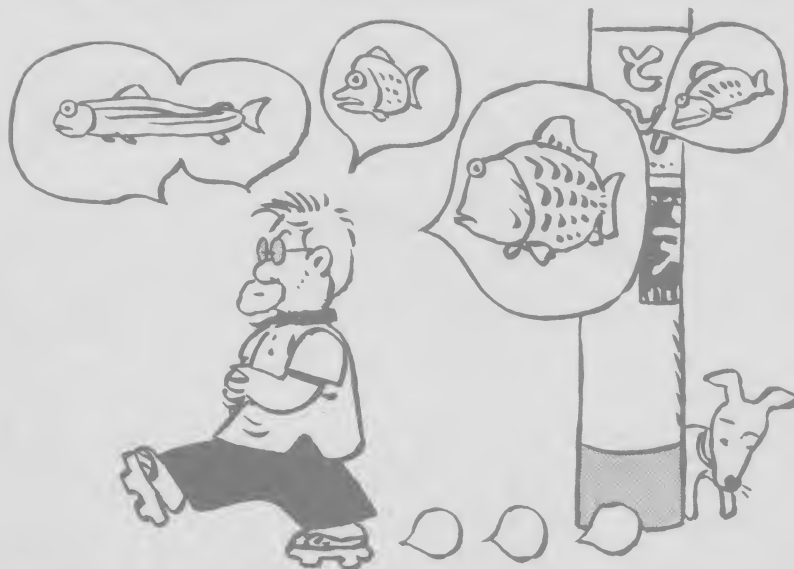
そんな訳で、巨大な魚の姿を一目見ただけで、小魚たちは喰われてはたまらんとばかりに発狂したように逃げまどうたので、わたしに良く似た巨大な魚は、だんだん面白くなくなり…水の中でゆったり泳ぎながら心の奥が孤独になって行くのを感じていた。

突然巨大な魚はショーベンがしたくなった。河の中なんだからそこですれば良いのであるが、何んとなくイヤーナ感じがする。そこでわたしは眼を覚し、夢からも覚めて、あわててトイレに走って行ったのだったー。

じゃぼじゃぼじゃぼとそれは果てしなく続くように思われ、ショーベンをしながらわたしは気の遠くなるよーなめまいを感じたのであるが、長いながいショーベンにもやっとこさ終りが来た。

だいじょうぶですかアトイレは扉をしめて使用してくださーいね

たて続けに大きなコップ三杯の水を飲んで、タバコ一本喫うと、やっと目が覚めた気分になる。そこで家内が出してくれたカレーライスを一皿食べると、再びコップ二杯の水を飲んだ。

それから冷蔵庫のウーロン茶をコップで二ハイのみほすと、さすがにお腹がダボダボになった。

外を歩いていると、突然先程見ていたユメの事を思い出して「オレのご先祖さまは魚だったのかも知れない」と思ったりして変にナットクしちゃったりした。

気が付くと、駅前のラーメン屋「丸長」に入ってチャーハンとラーメンを注文して、そこでも小コップ二杯の冷水をガブガブと飲んでいる。

不思議なコトに、特に腹が減ってる訳でもないのに、チャーハンをおかずにラーメンをぺろりと食べて、セルフサービスの冷水を小コップ四杯ゴクゴクゴクゴクとばかしに飲んでしまった。

のんでも飲んでもノドの渇きは、一向に治まる気配はないようなのだ、そうして、そのカワキが少しでもうすらぐと、すでに何かを食っている。そんな状態がここ二週間は続いているのである。

考えると気分が悪くなって来たので、そのことを忘れるためにパチンコでもして見ようと思った。パチンコに熱中してても無意識のうちに玉で交換できるコーラとかアイスコーヒーをガブガブのんでいるのだ。

運良くパチンコには勝ったが、約一時間で、ハイライト一箱喫って、コーラ六本にコーヒー四杯ものんでしまったので、トイレに行ったりコーラかえに行ったりで大変に忙しいパチンコであったのだ。

パチンコ終ると、南口商店街の中程にある喫茶店コブでトイレ借りてじゃあじゃあ五分かかってショーベンして、たて続けに冷水三杯飲んでコーヒーをのむと、何か食べたくなった。

だがそれは少しガマンしてコブの前の松本商店で鯉と猫のエサを買うと、北口の日本そば屋まで歩いて行き、カツ丼とキツネそば、それにもりそば食べてお茶二杯と水をコップで七杯もガブガブガブガブ飲んでしまった。

家に帰り、机の前に座り、さて仕事を始めようと思ったが、頭が既に寝ている感じで手につかない。ちょっと食べ過ぎた感じでもある。

わずか三、四時間の間に、どれ程のものを食べたのか、書き出して見て驚いた。このまま起きてるとあとどれ程のものを食べ、何リットルの水を飲むのかと思うと少しばかり恐くなって来た。

そく、寝ることにした。ねてる間は、食べ物は勿論、タバコも喫わず水も飲まずにいられる事に気がついたからであった。